

新基地建設反対名護共同センター ニュース

『最高裁が最低・最悪の判決』 司法の番人が権力の番人

県民集会に七〇〇人

九月四日(月)の最高裁の不当判決への抗議の県民集会が、九月五日(火)に県庁前の県民広場で行なわれた。

最高裁判決によっても設計変更の承認の理由は解消されず、新基地建設反対の民意が揺らいだわけでもない。

オール沖縄会議共同代表の稲嶺進元名護市長は「日本の司法はここまで地に落ちたかと感じた人は多いだろう。辺野古が白紙撤回されるまで知事を支え、力を合わせて頑張ろう！」とあいさつした。弁護団、国会・県議会各会派代表、各地域の島ぐるみ代表等も怒りの抗議を沸騰させた。

水面下九〇メートルもある海底に約七万本の杭を打ち込む工事の技術的な審議は一切ありません。それは審議することで沖縄県の主張の正当性が全国・全世界へ発信される事を恐れての事である。正義の天秤を権力の番犬に成り下がっていることを自ら証明したようなものである。「命どう宝」は世界の正義である。



学習会のお知らせ 最高裁判決にどう対応するのか!

辺野古裁判と沖縄の誇りある自治
講師：徳田博人さん(琉大教授)

日時：9月13日(水)18時～
場所：沖縄市農民研修センター
主催：オール沖縄会議

辺野古新基地・軍事強化反対

読谷村・スタンディング

政府は沖縄県民の民意が反対しているにも係らず、辺野古新基地建設を強行している。辺野古の海は生物多様性の宝庫と言われる。また、専門家により基地建設は技術的にも困難と指摘されているのに、司法が国の不当な振る舞いを後押しし、民主主義を破壊している。

そして今、軍事費を7兆7千億円に倍加させ、沖縄の自衛隊基地を敵基地攻撃基地として強化している。

読谷では、この様な戦争国家への動きに反対し運動を広げるため、スタンディングを3名で始めた。この辺野古新基地反対の行動は、毎月第一土曜日朝8時から半時間。戦争国家反対の宣伝は毎週火曜日の朝8時から半時間である。

スタンディングを初めて2年が過ぎた。中には飲み物を差し入れする人もいる。訴える内容に地球温暖化阻止も入れたら若者が敏感に反応している。

「継続は力なり」、各地でもスタンディングが増えると運動は広がり、玉城県知事が後押しする大きな力になる。

(読谷村 伊佐眞政)



革新懇辺野古問題学習会

辺野古新基地最高裁の不当判決

講師：徳田博人さん(琉球大教授)
日時：9月24日(日) 18時
場所：浦添市社会福祉センター



那覇市識名の金城さん

一人で宣伝を始めて6年...

金城さんは辺野古の埋め立て工事が止まらないので、なにか自分のできることはないかと考え、6年前から一人で朝宣伝を始めました。3年前から近所の長尾さんが宣伝に参加し、那覇市民体育館入口交差点で毎週金曜日の朝に取り組んでいます。6年間も続けていると、通学の子供たちや通行人と顔見知りになりみなさん挨拶してくれます。

その支援者から、「私には何もできないけれど、皆さんの宣伝を見ていると元気をもらいます」と激励されたことがあると、長尾さんは嬉しそうに話します。

金城さんは昨年、地元中学生から夏休みの宿題として、「社会科学新聞」を作るためインタビューを受けたそう、これを学校で発表したらよい評価がもらえたと、嬉しそうに話します。

一三七回目の

スタンディング

「辺野古新基地建設反対」首里スタンディング実行委員会は、今年八月一二日で二三七回目のスタンディングを首里鳥堀交差点で行いました。

当日は県議をはじめ五名が参加し、十一時から二十分間、手振り運動や歩行者にアピールしました。

首里実行委員会は、二〇一八年五月十四日に退職教員を中心にスタートしました。初めは、第二月曜日の朝七時半～八時まで、鳥堀交差点と汀良交差点で行われ、その後、第二、第四の月曜日に実施してきました。

二〇二二年には、二〇〇回目のスタンディングになりました。参加者の体調不良や家庭の事情により一時は実施できない時期もありましたが、新しい参加者も出てきて、現在は、土曜日十一時から三十分間のスタンディングを継続しています。

